会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（オクトス湘南茅ヶ崎自治会②）
2　日時	平成 30 年 9 月 16 日（日）11：00～12：00
3　場所	オクトス湘南茅ヶ崎マンション内管理棟
4　出席者	（資源循環課）熊澤課長、小田副主査 （環境事業センター）関原主査、加茂主任 （オクトス湘南茅ヶ崎自治会②）参加人数：14 人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●燃やせるごみの内訳として、プラスチック類が 0.6%ということは、分別が適切にされているということでよいか。 →この図では、燃やせるごみの中に、資源化可能なプラスチック製容器包装類が 8.8%あり、まだまだごみを削減できる余地が残されていることをお示しさせていただいた。 ●知ってる？紙の分別で、雑紙としてリサイクルできる紙とあるが、非常に分かりにくい。チラシが資源化できるのに写真つきはがきが燃やせるごみとなってしまう理由が分からない。理由を示してほしい。 →雑紙でも、加工がされているものや臭いがついているもの、汚れなどが付着しているものはリサイクルできない紙となる。 ●カップ麺のカップはなぜリサイクルできないか。 →撥水加工がされているためリサイクルできない。 ●習字やクレヨンで描いた紙はリサイクルできないとあるが、メモ用紙はボールペンで汚れているのに、なぜリサイクルできるか。 →リサイクル業者に確認をしたうえでチラシを作製しているが、汚れの量や油分の有無が原因だと考えられる。 ●雑誌と雑紙を混在している市民が多くいると思う。 ●プラスチック製容器包装類も、最後はごみとして燃やしていると聞いたが、茅ヶ崎市も同様か。 →固形燃料としている割合が多いが、ごみとしては燃やしていない。 ●市として資源化が終わるまで追跡調査は実施しているか。 →国の指定法人が一括して収集しているため、不正はないと考えている。また、市の職員も年に 1 回、適切に資源化されていることを現地で確認している。

	●なぜ有料化にするか。 →有料化は、ごみの減量化などを図ることができる有効な施策と考えているが、必ずしも行わなければいけないものではないため、市民の皆さまからご意見をいただきながら方針を決定したいと考えている。 ●大規模修繕等が予定されているのなら、民間の場合には、資金を積み立てておくが、なぜ市は行わないか。 →市としてもごみの減量化・資源化基金というものがあり、積み立てを行っている。修繕に係る費用には基金を充当するだけでなく、国庫交付金なども要望して財源に充当している。 ●平成が終わることが分かっているなら、西暦で資料を作成すべきである。 ●堤十二天最終処分場を閉鎖した後は、上部を緑地化するか。 →上部については緑地化を検討しているが、閉鎖時には、地元との調整を十分に行う必要があると考えている。 以上